

ニブラーズ、かじる虫たち④

ミイラをかじる虫

宮ノ下明大

植物が怖い映画

最近、日本で劇場公開された映画『リトル・ジョー』(2019年)をみた。人間を幸せにする香りを放つ新種の赤い花を咲かせる植物を、遺伝子工学で作りに出したバイオ企業の女性研究者の話だ。その香り(花粉)には、人間の体内にオキシトシンというホルモンの分泌を促し、幸福感を高める作用があるらしい。

彼女は会社に内緒で自宅に植物を持ち帰って『リトル・ジョー』と名前をつけ、息子にプレゼントする。しばらくすると、植物の世話をした息子の様子がいつもと違うことに気がつく。また、会社でその植物の温室に閉じ込められた犬の性格が飼い主を嫌うように変化した。企業内の人々も慎重だったこの植物の販売について賛成へと意見が変わっていく。

映画では、植物の放つ花粉を吸い込んだ人間の変化を描いていくが、その変化が花粉を吸い込んだことが原因なのか、別の原因で変化したのか、区別がつかない微妙な描き方になっており、観客にその判断を委ねて映画は終わる。主人公の女性は大きな決断をすることになるが、それも植物に操られているのか・・・、このすっきりしない感じがこの映画の怖さである。

動き出す植物

昆虫が大量に登場するパニック映画は多く、虫が集団で襲ってくるとしたらリアルに怖い。それに比べ植物は動かないので、怖いイメージは薄い。しかし映画『人類 SOS!』(1962年)の展開では、ある夜、大規模な

流星雨が地球に降り注ぎ、それを見たすべての人々が失明してしまう。翌朝、眼が見えたのは、眼の病気で包帯をしていた人や、地下室にいて流星雨をたまたま見なかった人たちである。そんなパニック状態のなか宇宙から飛来した食肉植物トリフィドが動き出して人間を襲うのだ。原作は食用として栽培された植物のようである。この映画の怖さは、襲うことがないと思い込んでいた植物が敵になってしまうことである。



食肉植物トリフィド

植物 VS 人間

映画『ハプニング』(2008年)では、原因不明で人々が自殺するという現象が広がる恐怖を描いている。主人公の家族が、鉄道に乗って、得体の知れない現象から逃げて行く映画である。原因はウイルスか化学兵器か、想像しながら見ていくが、なかなか正体がかめない。最後に近くなって、植物が放出する化学物質が原因だったことがわかる。しかし、なぜ植物がこの物質を出し始めたのか、どうしてそれが止まったのかも明らかにされない。

派手な展開を望んでいた映画ファンには失敗作と言われているらしいが、私はこの着想に「そうきたか」と大きくなずき、この映画の怖さを考えた。

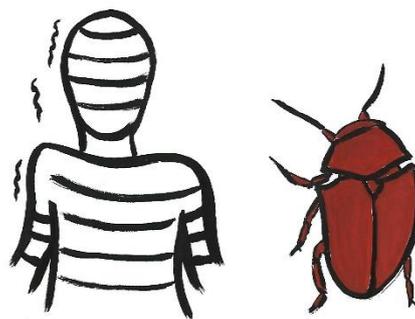
植物同士は実際に化学物質で会話をしていることは研究で明らかな事実だし、植物が害虫に食べられると、その害虫の天敵を植物が化学物質を出して呼んでいる現象も知られている。アロマオイルの香りはセラピーに使われるが、この香り物質には、植物を食べる害虫を忌避したり、殺虫したりできる多くのテルペン類が含まれているのだ。植物は動かないが、何もしていないと考えるのは誤りだ。植物が人間を敵と捉えたとき、殺人物質を放出するという着想はエンターテイメントとして面白い。

この映画の監督は、『シックス・センス』（1999年）のM. ナイト・シャラマン、さすがである。

ミイラをかじる虫

タバコシバンムシは、体長 2~3mm の光沢を持った茶色い卵形の甲虫である。幼虫は粉体食品を好むがとても広い範囲のものをかじる害虫である。加工食品としては、パスタ、七味唐辛子、チョコレートに被害がある。稲わらも食べるので畳にわく、大型の穀物コウリヤン（高黍）の茎で製造されたフローリング材、ドライフラワーでも発生事例があり、食品とは関係なく家屋内で発生することがある。

書籍によると、ネズミ退治の毒餌、猛毒のトリカブトであっても平気で発育するらしい（私は確認したことがないが）。とにかく幼虫は乾燥物なら何でも食べるという印象がある。私は試しに煮干しに卵を投入してみた。見事に大きな成虫になり、動物質の乾燥物でも発育することに驚いた。エジプトの王、ラムセスⅡ世のミイラからも発見されているので、人間もミイラになるまで乾燥すれば幼虫にかじられるだろう。



ミイラも怖い？タバコシバンムシ

活発に飛ぶ成虫

一方、成虫は積極的な摂食はしないし、指でつまむと簡単につぶれてしまう柔なからだであり、幼虫のイメージと大きなギャップがある。成虫の特徴としては活発によく飛ぶことが挙げられる。コクゾウムシ、コクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシの成虫と比べても明らかに飛びやすく、拡散するスピードは速いと考えられる。

屋外にフェロモントラップを設置すると多数の成虫を捕獲できることから、屋外の発生源も存在することは確かだが、はっきりしたことはわからない。

タバコシバンムシがモチーフ？

映画『ハムナプトラ』（1999年）には、エジプトのミイラが肉体を蘇生して復活した時に、大量の肉食性甲虫が現れ、ミイラはこの甲虫を意のままに動かし人間を襲わせている。この甲虫は、エジプトでは復活の神として扱われるスカラベ（糞虫）だと私は思っていた。しかし、これは実際のミイラから発見されたタバコシバンムシがモチーフであるという情報もある。人間を襲う肉食性であれば、糞食性のスカラベよりもタバコシバンムシの方が説明しやすいと思うが、情報の確認が取れずにいる。しかし、映画の甲虫は形態的にはタバコシバンムシではない。

ドクダミ茶に混入した虫

ドクダミ茶の生産者から製品に混入した虫について相談を受けたことがある。混入したのはタバコシバンムシであった。ハーブティ、紅茶等の乾燥した葉の害虫でもあるので、ドクダミの葉をかじってもおかしくない。野外の道ばたにドクダミはたくさ

ん見ることができる。しかし、野外の枯れたドクダミからタバコシバンムシが発見された事例はない。私はその辺のドクダミの葉を採集し乾燥させた。これでタバコシバンムシの発育を調べてみようと思いを巡らせている。昆虫学者としては少しワクワクする時間である。 (2020年8月)